

(様式 6 - 1)

R07-活-005

実績概要 (ホームページ掲載用)

研究又は活動のテーマ	ICTを活用した森林との共生を考える学習
団体名	山梨県立笛吹高等学校総合学科環境緑地系列
代表者	内藤 鞠香

(目的)

本校総合学科環境緑地系列では、ものづくりに関わる人材の育成を目標に、建築・土木の授業を中心に、木材加工や金属加工、製図等の実習を展開している。また、昨年度より科目「林産物利用」を設置し、建築材料の要である木材についてその性質や生産に関する学習も始め、ものづくりについて体系的に学ぶことのできるカリキュラムを設定している。今回、木材のプレカットや大規模木造建築の設計施工など先駆的な取り組みを行っている株式会社七保と連携し、林業および建設業への理解を深めることで、生徒が建設業やそれに関連する産業に興味を持ち、学習意欲の向上や建設関連産業への入職促進に繋げることを目的とする。

(概要)

1日目 6月12日(木) 13:30~15:30

南アルプス自然邑の大西様を講師に迎え、自然環境の大切さを考えるワークショップを行った。山梨県の豊かな森林資源や、森林が水源涵養や生物多様性の保全に果たす役割について学び、身近な自然を守る意義や森林保全への関心を高める機会となった。

2日目 7月29日(火) 13:00~16:00

大蔵経寺山にて、山火事が森林に与える影響を調べる初回調査を実施した。焼失跡や植生の変化を観察し、火災によって失われた自然がどのように回復していくのかを現地で確認し、森林の回復力と課題について理解を深めた。

3日目 8月22日(金) 9:00~16:00

黒坂オートキャンプ場周辺で、森林が人や環境に与える多様な効果について調査を行った。森林浴の効果や樹木の役割、気温・湿度などを計測し、森林が快適な環境を生み出す仕組みを実感的に学習した。

4日目 8月28日(木) 14:30~16:30

金川流域の河畔林を散策し、獣道やシカの食害跡を観察した。動物と森林が相互に影響し合いながら成り立つ生態系について学び、適切な森林管理や人の関わり方の重要性を理解するフィールドワークとなった。

5日目 9月18日(木) 13:00~16:00

大蔵経寺山において、山火事影響調査の2回目を行った。前回調査との比較を通して植生の回復状況や土壌の変化を記録し継続的な観察が森林再生の理解に不可欠であることを学んだ。

6日目 11月1日(土) 13:00~16:00

3回目の大蔵経寺山調査では、樹木の再生状況や下層植生の広がりを確認した。季節の変化による影響にも注目し、森林の回復過程が一様ではなく、多様な要因が関係していることを理解した。

7日目 11月11日(火) 9:00~15:00

株式会社七保を訪問し、大規模木造建築やプレカット木材について学習した。原木市場や加工工程を見学することで、木材が伐採から建築に使われるまでの流れを理解し、森林資源の循環的活用について考えた。

8日目 1月21日(水) 13:30~15:30

これまでの調査結果をポスターにまとめ、発表会を行った。調査目的や方法、結果を整理して他者に伝えることで、自身の学びを振り返るとともに、表現力や説明力の向上につなげる機会となった。

9日目 1月23日(金) 13:45~15:45

ポスター発表後の振り返りとして、講師とオンラインミーティングを実施した。発表内容や構成について助言を受け、調査結果の伝え方を改善する視点を得るとともに、今後の学習への課題が明確になった。

10日目 1月24日(土) 9:00~12:00

サイエンスフェスタ2025に参加し、一般来場者に向けてポスター発表を行った。地域の方や専門家から意見を受けることで、学習内容を社会に発信する意義を実感し、森林保全への理解をより深めた。